

【佳作】

「繋がる未来」

鹿部町立鹿部中学校

2年 川村 球宇

昔、日本や世界中で戦争があったって本当ですか。今の僕たちはこんなに何不自由なく暮らしているのに。昔、日本の領土に住んでいたのに追い出され、故郷を奪われた人たちがいたっていうのは本当ですか。今の僕たちは安心して自分の住みたいところで生きられているのに。

「北方領土」とは、国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島の四つの島のことで、第二次世界大戦後、日本の領土だったのに、旧ソ連に無理やり奪われ、未だに返してもらえない場所。

正直、今までの僕は、学校で習ったその程度の知識しかなく、今回作文を書くにあたってネットで調べてみても、ただ難しい言葉で出来事が書かれた文ばかりでピンとくるものがなく、心に響いてきません。どうしても生の声が聞きたいと思いました。

そこで祖父に、誰か北方領土について詳しく教えてくれる人はいないかと相談したところ、知人に連絡してくれ、紹介してもらったのが、「北方領土復帰期成同盟」の方でした。その方にお会いし、北方領土が旧ソ連に奪われるまでは今まで一度も他国に侵略されることなく、日本人の手によって開拓された日本固有の領土であることをわかりやすく説明してくださいました。そして色々な資料もいただき、その中でも僕の心に一番響いたのが元島民の方たちの訴えでした。

そこには、その方たちの祖先が一つひとつ手で木を切る。根を掘る。草を取る。全部手仕事で、まさに血と汗を流して開拓した島を追い出され、故郷を失った死ぬほどの苦痛と無念の思いが生々しく書かれていました。僕はこれらを読んで、なぜ、人間は戦争という取り返しのつかない過ちをおかすのかと、とても憤りを感じました。

復帰期成同盟の方たちは、国対国の本当に難しい問題だから長く時間がかかるだろう。どこの国でも領土問題というものは、難しく根深いものだというお話をしてくださいました。そして、平和な暮らししか知らず、政治や領土問題に関心の薄い、僕を含む現代の若者たちに、このことを繋げていくためにも、復帰期成同盟の方たちはキャラバン隊をつくり、講演会、署名運動等の活動で各地を回っていらっしやることを聞き、僕もそのキャラバン隊の出発式に参加させていただきました。

僕が一番感銘を受けたのが、日本政府や復帰期成同盟の方たちの、返還後も、北方領土に現在居住しているロシア国民と共存していくという考えです。昔、強制退去させられた日本人の島民と同じ悲劇をくり返してはならないという考え方に、僕も日本人として誇らしさを感じました。ロシア人も日本人も皆、同じ人間です。大切な家族や住む家、故郷を想う気持ちは誰でも一緒だと思います。

今回出会った方たち、先人たちが残してくれた大切な想いを無駄にせず、僕たち若い世代ができること、それを一人ひとりが真剣に考え行動することによって、幸せな未来に繋がると思うのです。